

『手の届く』 作…ポチ子

ユウ 「それは無理です。」

スイ 「え？」

ユウ 「世界中の人を幸せにしたいだなんて無理です。こうやってあなたが私と話してる間にも、死ぬ人や傷ついている人、泣いてる人もいます。でも、あなたはそんなこと分からないでしょ？」

スイ 「分かるよ。」

ユウ 「じゃああの人。」

スイ 「え？」

ユウ 「あの人最近何で悩んで泣いたか分かりますか？」

スイ 「え、えっと・・・。」

ユウ 「ほら、分からないでしょ？分からないのに幸せになんか出来ないです。」

スイ 「そんなの分かんないだろ。一発ギャグでも披露して笑わせてあげるよ！」

ユウ 「笑うのと幸せはまた別の話です。そもそも幸せって色んなものが合わさって成り立つものじゃないですか？何か一つ満たせたからって、その人が幸せになれるわけじゃ

ありません。」

スイ 「……。」

ユウ 「それをできると思うのはただの傲慢です。世間知らずです。自己中野郎です。」

スイ 「……そんな言わなくても……。」

ユウ 「それって身近な人じゃ駄目なんですか？」

スイ 「え？」

ユウ 「あなたの手の届く範囲の、顔見知りの、家が近所の、部活が一緒の、帰り道が同じの。それじゃダメなんですか？」

スイ 「……駄目じゃないけど。」

ユウ 「それなら出来ると思いますよ、あなたなら。」

スイ 「でも、それじゃ皆を幸せに出来ない。」

ユウ 「それはそうですけど。それを皆が出来るわけじゃないから、不幸な人がいるんじゃないんですか。私はあなたなら出来ると思うんです。手の届く範囲を幸せにすること。」

スイ 「……そう、かな。」

ユウ 「なので手始めに、一発ギャグ披露してください。」

スイ 「うええ!？」

ユウ 「ふふ、楽しみだなあ。」